

学校 教育 目標	ふるさとに学び ふるさとで遊び ふるさとを愛する 鴨志田緑の子 ~ ふれあい かがやき 豊かな心 ~ ○ 基礎的・基本的な学力を身につけ、共に学び合う力を育てます。(知) ○ 自分や人のよさを認めて共に成長する、豊かな心を育てます。(徳) ○ 健やかな心と体を鍛え、たくましく生きる力を育てます。(体) ○ 「ふるさと」を愛し、人・自然・まちと協働する力を育てます。(公) ○ 様々な人とのコミュニケーションを通し、共生する力を育てます。(開)				
	創立 43 周年 児童生徒数: 349 人	学校長 薬科 直希	副校長 飯島 里香	2 学期制	一般学級: 12 個別支援学級: 6
学校 概要	主な関係校: 鴨志田中学校 鴨志田第一小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	鴨志田中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<伝え合いながら、問題解決する力> <自他の良さを認め合い心豊かに生きる力> <人と学ぶ・人に学ぶ・自ら学ぶ力>	鴨志田中学校 鴨志田第一小学校 鴨志田緑小学校	「伝え合い、学び合う力をはぐくみ、9年間の学習に主体的に取り組むことができる子ども」「互いを認め合う豊かな心をもった子ども」「運動に楽しく取り組み、健やかな体をはぐくもうとする子ども」「何事にもチャレンジできる子ども」「地域に貢献できる子ども」 ・ブロック内小中合同授業研テーマに基づく授業研(意見交換会・年2回) ・ブロック各部会(児童生徒指導・特別支援教育・児童生徒会・学校保健委員会)における情報貢献・共有の充実と実践 ・ブロック3校での地域連携の深化

中期 取組 目標	○ 豊かなふれあいを大切にしながら、だれもが安心して笑顔で過ごせる学校をめざします。 ○ 一人ひとりが必要感をもって、自分の考えを伝え合うことを通して、学び合う楽しさを実感し、自尊感情を高めることができる授業づくりを推進します。 ○ 人とかかわり合いの中で、互いを認め、思いを伝え合うことのできる豊かなコミュニケーション能力の育成を図ります。 ○ 児童が安心して学校生活が送れるよう、丁寧な児童理解に務め、組織的に児童支援・児童指導を行います。 ○ 地域とのつながりを活かした教育活動を進める中で、ふるさとを大切に思う心を育てます。 ○ 教職員の人材育成を通して、「チーム鴨志田緑」の組織力の向上を図り、連携・協働しながら、学校教育目標の実現に努めます。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
知 生きてはたらく知	① 研究主題を「ともに関わり学び合いながら、自分を高める子の育成」とし、様々な教科・領域において、自ら学びに向かい、友だちと話し合いながら、問題解決していく授業を目指し、資質・能力の育成に取り組む。② 生成AIパイロット校認定校として、情報活用能力の育成を図りつつ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指す。
担当 重点研推進委員会	
徳 豊かな心	① 「特別の教科道徳」を豊かな心の育成の中核ととらえ、道徳における「見方・考え方」を働かせる工夫をし、価値把握の理解や振り返りの充実を図り、自分事として日常的な実践につなげられるようにする。② KFT(縦割り活動)をはじめ、各学年の実態に応じた人権福祉教育を行い、子どもの自尊感情や自他を大切にすることを育む。
担当 道徳推進教諭	
体 健やかな体	① 一校一実践の体力アップ活動(マラソン)を児童が主体的に取り組むことができるよう計画的に進め、代表委員会を通して全校が取り組んでいくという意識を高めていく。体力アップ活動(マラソン)を通して、体力の向上と運動に慣れ親しむ資質・能力を育む。② 保健、体育の授業の充実と食育の推進を図る。
担当 体育部	
公開 異学年交流	① 高学年が段階的にKFTの企画・運営を担うことでリーダーとしての役割や責任を自覚し自信をもって主体的に活動に取り組めるようにする。② 上級生からアドバイスをもらう時間を設定することで高学年の交流を活発にし、共に学校を支えようとする心情を育てる。③ ペア間の交流を密にし学校全体での温かい人間関係の構築を推進する。
担当 特別活動部	
いじめへの対応	① 研修やいじめ防止対策委員会を通して教職員一人ひとりのいじめに対する感度を上げ、未然防止・早期発見・早期対応を徹底する。② YPプログラムを積極的に活用し子どもの社会的スキルの育成を図るとともに、温かい学級風土の醸成に努める。③ いじめアンケートと面談内容を全校で共有し組織的な見守り体制を充実させる。
担当 児童指導部	
人材育成・ 組織運営(働き方)	① 校務DXについてAIパイロット校の指定校となっているので、出来る限り校務DXの推進を図る。② 学校の実態や職員のニーズに合わせた内容で、充実した研修を行う。さまざまな経験年数の職員が主体的に参加し、疑問や意見を共有できる研修会にし、チームで教師力向上をめざす。③ 学校評価を活かして、業務の明瞭化・効率化をさらに図る。
担当 教務部	
特別支援教育	① 校内支援体制に基づき、支援や配慮を要する児童のニーズに応じた指導・支援を保護者と連携して進める。② 個別的教育支援計画・個別の指導計画を振り返る時間を年間行事予定に入れ、必要とされる支援を計画的に行うようにする。③ 特別支援教育や合理的配慮等に関する研修を行い、特別支援教育の理解を深め、充実を図る。
担当 特別支援委員会	
児童指導	① 学校全体で教科担任制、授業・活動交換等を積極的に行い多角的な児童理解ができるようにする。② 児童が自己理解を深め、課題解決能力を高めることを支援する。③ 「発達支持的生徒指導」(児童が自発的・主体的に成長する過程を支える生徒指導の在り方)への理解を深め、学級づくり、授業づくりで実践していく。
担当 児童指導部	
地域連携 学校運営協議会	① 2年生以上の学年で取り組む農園活動など、本校の特色である「地域とのつながり」を大切にしながら地域や保護者、ボランティアとの連携を図り、子どもたちの学習活動をさらに豊かにしていく。② 学校運営協議会とともに、学校・家庭・地域が一体となった学校運営を目指す。
担当 地域連携担当	
安全管理	① 防災訓練では、避難スタンダードを基に、基本的な身の守り方・避難の仕方を確実に身に付けさせると共に、起こり得る様々な場面を想定し、状況に応じて適切な避難行動を取る力を養う。② 校内の安全点検を定期的に行ったり物品の管理の仕方に気を配ったりし、安全な環境を整える。
担当 防災安全部	